

「京田辺市“生きる”支援計画 ー京田辺市自殺対策計画ー」素案に係るパブリックコメント結果

1 パブリックコメント実施概要

(1) 計画（素案）閲覧場所

市ホームページ、市役所健康福祉部障害福祉課、中央図書館、北部住民センター、中部住民センター
三山木福祉会館、社会福祉センター、障害者生活支援センターふらっと

(2) 意見募集対象

市内に在住・通勤・通学する人、市内に事務所・事業所を有する個人・法人・団体等

(3) 意見募集期間

平成31年2月6日（水）～平成31年3月5日（火）

(4) 意見提出数 6名 13件

2 パブリックコメント意見と意見に対する考え方

No.	意見の要旨	意見に対する考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 現在ある取り組みというものの自体が広まっていないと感じる。例えば、自己肯定感を育てる教育を行っていると書かれているけれども、実際にどのような政策を行っているのか不透明だと思う。 事業の周知や浸透のための取り組みが少ない。 	<p>(加筆)</p> <ul style="list-style-type: none"> 素案40ページ（事業の周知・啓発）に記載しているとおり、今後、本市ホームページに生きる支援に関する取組についての専用ページを新たに設けるほか、大学や高等学校、民間事業者などと連携を行い、幅広い周知に努めていくこととしています。 現在行っている事業についても明確にしていくため、今後の重点取組に、「また、現在行っている事業についてもさらに市民に周知できるよう、市全体として取り組んでまいります。」を加筆いたします。
2	<p>今回、高齢者に対する施策が多いと感じ、その理由を調べたことで高齢者に自殺が多いことを初めて知った。高齢者自身は、「人に迷惑をかけたくない」という思いで、自殺という道を選んでしまうようだ。それならば、50代、60代くらいで、その後も見据えて「生きがい」を見つけていくことが重要だと思う。</p>	<p>(修正なし)</p> <p>今回いただいたご意見については、今後の具体的な取組のなかで、参考とさせていただきます。</p>

3	<p>人が自分の心が疲れている時に市のホームページを閲覧することはないのではないか。それなら、小学校や中学校の授業の中で、その存在を楽しみながら知る機会があれば、その知識が付き、自分の心が不安定な時に思い出すことができるのではないかと思う。学生が自殺しようと思うきっかけはいじめなど「視野の狭さ」が大きな理由であると思う。その子たちに世界は「学校だけではない」ということを伝えられる、感じができる場があれば感じる。世の中は学校だけじゃない、学校がしんどい存在ならば、学校をやめてしまえばいい。そういう風に考えられる機会を提供することが必要だと思う。</p>	<p>(修正なし)</p> <p>今回いただいたご意見については、今後の具体的な取組のなかで、参考とさせていただきます。</p>
4	<p>昨今の社会情勢を鑑みて、子供の自殺対策にもっと支援計画を入れてほしい。</p>	<p>(修正なし)</p> <p>本計画で挙げている重点取組を推進することにより、子ども自身への支援に加えて、相談窓口や見守り、保護者への支援などの強化により、子どもを取り巻く環境の改善につながると考えています。</p>
5	<p>私は「死ぬまでにしたいことリスト」を作ることがいいのではないかと思っている。「ケーキをワンホール食べたい」といったような小さいことから、時間のかかりそうなことまでのリストを作成し、できそうなことから取り組んでみる。そして、できたことは消し、新たにしたいことが増えれば追加していく。そのリストの存在が、将来への楽しみにもなるし、死ぬ時に後悔しない生き方に繋がると思う。</p>	<p>(修正なし)</p> <p>今回いただいたご意見については、今後の具体的な取組のなかで、参考とさせていただきます。</p>

6	<ul style="list-style-type: none"> ゲートキーパーの養成は「単発」的な開催であるが、年間を通しての、ターゲットを絞った養成方法も考えていく必要があると思う。 行政向け、一般医向け、薬剤師向けなど、各支援者別のゲートキーパー養成研修が必要なのではないかと思う。 	<p>(修正なし)</p> <p>現在、本市ではゲートキーパーを増やすため、養成研修会への参加者増加を図ってきています。今後の取組として、市職員や民間事業者等を対象としたゲートキーパー養成研修会の開催を、計画の中に盛り込んでいるところです。今回いただいたご意見については、今後の具体的な取組のなかで参考とさせていただきます。</p>
7	<p>ゲートキーパー養成研修について、出席者数だけではなく、受講した効果が結果として得られているか、効果測定が必要と考えている。それも取り入れた研修企画が必要なのではと思う。</p>	<p>(修正なし)</p> <p>今回いただいたご意見については、今後の具体的な取組のなかで、参考とさせていただきます。</p>
8	<p>自殺予防はそれぞれの分野が単独で行うのでは結果が得られない点は計画の内容からも理解できる。どうやって包括的に支援する取り組みができるか計画に盛り込む必要があると思う。</p>	<p>(修正なし)</p> <p>本計画の策定により、本市すでに取り組んでいる事業を、自殺対策（生きる支援）の視点で取り組んでいく意識を共通にもつことにより、今後包括的な取組につなげていくこととしています。</p>
9	<p>ゲートキーパー養成研修など、地域で身近に見守りの視点をもって活動していく人が増えることによって、悩みを早期に解決できたり、自殺予防につながっていくと思うので、啓発活動や養成研修は、今後も、必要だと思います。</p>	<p>(修正なし)</p> <p>ご意見いただきましたとおり、本市としても引き続き啓発活動や養成研修に力を入れていきたいと考えております。今後の重点取組にあげています。</p>

10	パブリックコメント募集に際して、資料を閲覧できる場所が少ない。	<p>(修正なし)</p> <p>今回のパブリックコメントは、本市ホームページ、本市健康福祉部障害福祉課、中央図書館、北部住民センター、中部住民センター、三山木福祉会館、社会福祉センター、障害者生活支援センターふらっとを資料閲覧場所とさせていただきました。今回は、持ち帰り用の概要版の配架を行いました。パブリックコメントを実施する内容に応じて、より多くの市民の皆様に閲覧いただけるよう、進めてまいります。</p>
11	国、政府、自治体、国会議員、裁判官、その他の公務員は憲法が保障している基本的人権を守り実行する義務を負ふ。この義務不履行のために多くの人が自ら命を絶っていることに繋がっていることを自覚していますか。憲法99条に謳われている者達が日本国憲法を無視して反故にしている事実。国民の人権を蔑ろにしていること。京田辺市が取り組んでいること、等。市が平和核兵器廃絶運動、平和宣言都市、人権擁護推進運動等の啓発事業等をされていますが、これらは憲法を無視し、反故にしていること。市役所がこの日本国憲法を守り行動すること。われわれ市民、国民が憲法を守っていても、国、政府、自治体が守らなければいくら啓発を唱えても何の効果もない。全て恐怖から生まれることです。この意見書の返答を必ずしてください。	<p>(修正なし)</p> <p>市役所の業務は日本国憲法に則り実施しているところです。今後も同様に、日本国憲法を遵守してまいります。</p>